

# 出席団体提出資料

『民間事業者の質を高める』  
有限責任中間法人 全国介護事業者協議会  
扇田 守

## 「社会保障カード」について

### 1.一元化について

年金手帳・健康保険証・介護保険証・雇用保険証・戸籍・住民票等国民個人の生活に直接関係する公的証書はばらばらに数多く存在し、その管理は国・自治体・個々人とも大変非効率になっている。特に年金・医療・介護の社会保障関連は、統一化して管理できるようになれば国民は、証書の管理・自分の情報の即時検索・手続きの簡便さ等大変助かる話であり、行政としても個人の情報変動に対し、迅速効率的な事務が可能となり、行政費用の削減に繋がると考えられる。

### 2.国民に対し十分理解が必要

しかし、一元化には大変多くの問題も存在する。その手段を考えるとまずコンピューターシステムを使用することが大前提となってくるが、コンピューターにおける一元化には、キーが必要であり、そのため健康保険を考慮すると国民全員に出生時から背番号をつける形にならざるを得ない。いわゆる国民総背番号制のイメージになるわけで、個人情報保護の観点から国民の理解を十分とる必要がでてくる。

### 3.セキュリティ対策

インターネット等を経由してコンピューターシステムにアクセスし、自分の情報を検索したり、手続きしたりできることは大変便利であるが、便利であることの裏返しに他人による不正アクセスや情報漏えい、不正手続きを引き起こす危険性も増大することにもなるため、セキュリティ対策は万全でなければならない。個人の認証をどういう形で実施するか、システム構築コストと効果の兼ね合いで考慮していくべきと考える。また、カードの盗難・紛失の際の迅速な手続き方法も考慮されなければならない。

### 4.運用上での検討事項

コンピューターシステムを中軸とした社会保障カードの運用は、コンピューターシステムに疎い国民、特に高齢者には理解し難い部分もあり、また運用・操作に当たっては問題となる。パソコンが使えない高齢者には利便性が減少し、セキュリティ上の問題のみが浮かんでくるようなイメージとなる。運用に当たって高齢者でも利便性が感じられるような工夫が必要と思われる。また、システム運用する行政側の不正のない誠実な対応やセキュリティ意識の向上やシステム監査制度の構築も必須と考える。

住民票と連動した社会保障カードシステムの構築は、その利便性と効率性から今後実現必須と考えるが、反面セキュリティの問題、運用の問題から国民の合意が得られる形には是非していただきたい。

## 考えられるメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"><li>・一枚のカードで管理できるのでカードの保管・管理が便利</li><li>・手続きが一元化されれば住所変更等楽になる。</li><li>・アメリカの社会保障番号のように終生不変の番号が個人に付与されれば改姓等で「宙に浮いた年金」は発生しない。</li><li>・自分で情報を確認できるのは便利で安心（自己情報の入手管理）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・年金・健康保険・介護保険という性質の異なる3つの社会保障制度を統一して一つのカードにする意味が理解できない。問題となっているのは年金であり、健康保険・介護保険ではない。</li><li>・社会保障カードの更新等について<ul style="list-style-type: none"><li>・健康保険は会社が変わると変更。</li><li>・介護保険は資格要件が頻繁に変わる。</li></ul></li><li>・一枚のカードで持つ情報量<ul style="list-style-type: none"><li>・全てのデータがカード一枚というのは不要な面もある。</li><li>・どこまでの情報が入るのか運用方法がはっきりしていない。</li><li>(例)病院で他の情報まで見られるのではないか</li></ul></li><li>・認知症（高齢者）の方の保管が心配</li><li>・上記のようなパソコンが使用できない人はどうするのか。</li><li>・メリットがあるのは、あくまでも管理する側の方が大きい。利便性・情報管理等</li></ul>

## 社会保障カードに対する要望事項

- ・カード紛失時、再発行手続きの簡素化
- ・カードの隅に穴を空けていただきたい。（首から掛けられるよう）
- ・カードの大きさは銀行のキャッシュカードの大きさに。